令和８年度　第１回　富谷市総合計画審議会　会議録

日　時：令和８年７月２９日（水）午後３時００分から午後５時１２分まで
場　所：富谷市役所 ３階　３０５会議室
参加者：富谷市総合計画審議会　出席委員１３名
　　：オブザーバー２名
　　：富谷市１２名
　　：事務局４名

１　開会（司会：企画部長）

２　市長挨拶（若生市長）

皆さま、お疲れ様でございます。本日は委員の皆様方大変ご多忙の中、令和 8 年度第 1 回富谷市総合計画審議会にご出席をいただき、改めて心から御礼申し上げます。そして、先ほど、委員を代表して風見先生に委嘱状をお渡しさせていただいたところでございますが、この度、新たにこの審議会の委員としてご就任いただきましたことを改めて感謝申し上げます。冒頭、進行の方からお話がありましたように、皆さま全員昨年度まで審議会委員としてお務めいただいてきましたが、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。また、オブザーバーとして、今年は東向陽台中学校よりお二方にお願いしています。どうもありがとうございます。富谷市は子どもにやさしいまちづくり実践自治体ということで、審議会の際、毎回オブザーバーとして市内の児童生徒を代表してご出席をいただいております。お二方には最後にご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、令和 8 年度は、おかげさまで富谷市市制施行 10 周年という節目の年を迎えます。平成 28 年 10 月 10 日に町から市になり新しい歩みを始めたわけでございますが、その際に、市になることが目的ではなく、どんな市を作るかが大切ということで、住民の皆様方に住民アンケートまたは地区座談会の様々な機会を通してご意見をいただき、それらも踏まえて、この審議会でご審議をいただき、策定したのが第 1 次富谷市総合計画でございます。皆さんご承知の通り、第 1 次富谷市総合計画は令和 7 年度をもって終期を迎え、令和 8 年度より第 2 次富谷市総合計画がスタートしたところでございます。

この第 2 次総合計画を策定するに当たりましても、もちろん住民の皆様のアンケート等も踏まえ、本日ご出席の審議会の委員の皆様方にご議論いただきました。改めて、感謝申し上げます。

新総合計画は、スタートから 4 ヶ月が過ぎようとしておりますが、先月 18 日には、株式会社東洋経済新報社が行っております住みよさランキング 2026（北海道・東北編）で、おかげさまで今回初めて自治体評価第 1 位となりました。去年は第 2 位、一昨年は第 4 位ということで、徐々に順位を上げ、北海道東北地区で初めて第 1 位の評価をいただきました。また、8 日には大東建託株式会社が行っております街の住みここちランキングで 7 年連続東北第 1 位という評価をいただきました。これもひとえに審議会委員の皆様、市民の皆様をはじめとした絶大なるご理解とご協力をいただいた賜物だと思っております。

本日は、富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況、第 2 次富谷市地方創生総合戦略

の効果・検証、地方創生交付金充当事業のKPI実績についてご審議いただきますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はどうもありがとうございます。

3　市政運営報告

※資料1により若生市長が市政運営を説明。

4　会長の選任及び職務代理者の指定

※互選により、会長に風見委員が就く。

※会長の指名により、職務代理者に佐々木委員が就く。

5　会長挨拶（風見会長）

皆さんこんにちは。ただいま、皆さんのご推挙によりまして、この審議会の会長ということで、謹んでお受けいたします。

本当に長いもので、富谷市総合計画の前期計画のころからだと思いますが、会長職をさせていただいております。私にとりまして、富谷市は本当に育てていただいたところでもございますし、先ほど、市長から市政運営報告がありましたように、本当にこれだけの快進撃を続けられている自治体というのは、東北全域でもなかなかないというふうに思います。

市長がおっしゃった通り、富谷市の力は市民力なんだろうと思います。皆さんが誇りに思っていただいていいなと思います。

市長からの報告を伺ってまずはユートミヤについてですが、ユートミヤのオープンおめでとうございます。私も審査に関わらせていただきましたが、たくさんの案がありどのようにしていくのかも大変悩みましたが、結果的にとてもいいものができたと思っています。形になるまでは関係者の方々それぞれの苦労もたくさんあったと思いますけれども、無事にオープンして皆さんに大変喜んでいただける施設になってるのではないかということで、審査に関わった1人として胸を撫で下ろしているところです。また、驚きましたが、オープンから一か月あまりで来館者10万人ということで、本当に賞賛の嵐です。この施設の設計者の方と話をしたのですが、大体、公共施設を作ると、公が作った施設を市民が受け取るのに時間がかかるものですが、ここは皆さんが積極的に受け取って、楽しんで、施設についての説明をしていただく方もたくさんいらっしゃるということでした。私は以前から富谷の方の市民力はすごいと申し上げていたのですが、設計者の方も市民力に驚いていました。それに応えるように頑張らないといけないなと思います。オープンしてすぐに来館者10万人を突破したということも大変嬉しいんですが、やはり都市政策というのは、箱を作るのは必要ですが、仏を作って魂を入れるということが一番重要で、ユートミヤをいかに使っていただくか、やはりソフトのコンテンツがすごく重要ですので、これからたくさんの物語が生まれてくるんだろうと大変楽しみにしております。とても斬新ですが、皆さんいかが感じられたでしょうか。

これから、富谷の文化性を高めていく必要があります。田園都市ということで、自然はネイチャーポジティブ宣言を含めてしっかり出来てきたように思います。「とみやど」の来場者数90万人も大変うれしくお聞きしました。

その他、最近の話題でロープウェイについてです。これを実現するまでには、これから乗り越えるところがあると思いますが、市民の皆さんの関心があるところでしょうし、またこれからの新し

い公共交通機関では鉄道だけに頼らないような色んな仕組みが必要になってきますので、これも富谷市が全国モデルになるのかなと思いますので、市長は大変だと思いますが頑張ってリードしていただければと思います。

全般を見渡して本当に素晴らしい進撃を続けておられると感じます。本日の点検は、我々が2年間をかけて作ってきた新しい総合計画についてではなく、その前の、今までの総合計画の点検でございます。成果として大変いい数字になっており、こんなにいい数字を挙げられているところはなかなかないと思いますが、それでも、それぞれ皆様のお立場の中で、オンブズマンではありませんが、しっかりと目標が実現できるように、忌憚のないご意見やご助言など厳しい目を光らせていただければと、また応援の目を、応援の声を上げていただきたいというふうに思います。

2年間かけて作り上げてきた新総合計画の前期基本計画が終わるのは2030年です。これはSDGsの達成目標年と同じです。2030年は、これから人類が地球とどう生きていくかという大きな節目を迎える期間のスタートでもあります。我々が作り上げた目標を絵に書いた餅にするつもりはありません。作ったものは実現しないと意味がありませんので、市事務局と一緒になって、これを点検し、また推進していきたいと思います。今日は、これまでの点検が主にはなりますが、皆様にはこの計画をもう一度当事者意識を持って、点検していただければというふうにお願いしたいと思います。

また、東向陽台中学校からのオブザーバーのお二人については、富谷で育ち、富谷を支えていくお二人です。大人たちは真剣に議論しますので、その後に、富谷の未来は私達だという感じで堂々とコメントをいただければと思います。

それでは、本年度もよろしくお願いします。

※ここから、風見会長が議長となり議事が進行された。

6　議事

(1) 富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について
(2) 第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について
(3) 地方創生交付金充当事業のKPI実績について

（風見会長）

それでは、議事について、

(1) 富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について
(2) 第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について
(3) 地方創生交付金充当事業のKPI実績について

こちら、事務局から一括して説明をお願いします。

（事務局）

それでは、富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。令和7年度までの総合計画では、市の将来像を実現するため、4つの基本方針を定めておりました。後期基本計画では、その基本方針の分野ごとに成果目標を設けており、本日

はその達成状況についてご報告させていただきます。

※資料2「富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況について」により進捗の報告

続きまして､富谷市地方創生総合戦略数値目標及びKPIの実績についてご説明させていただきます。

資料3をご覧ください。あわせて、参考として配付させていただいております A3 版の両面カラーの１枚ものの資料、上方のタイトルに紫色帯で「第２次富谷市地方創生総合戦略概要版」と書かれているものをご覧ください。

把握されている方もいらっしゃると思いますが、改めて総合計画と地方創生総合戦略の関係性について簡単にご説明させていただきます。概要版【1/2】の右下の図をご覧ください。富谷市総合計画が一番上位にございまして、その中で前期、後期ということで基本計画を５年ごとに区切って作っております。その後期基本計画が令和３年度から令和７年度までの期間となっており、総合計画において地方創生の趣旨を反映した重点的に実施する施策を総合戦略と位置付けております。こちらも後期基本計画と同様に令和３年度から令和７年度までの期間となっています。次に、左上の水色の見出し２つ目の「計画期間と管理体制」というところをご覧ください。3 行目のなお書き以降に記載されておりますが、「KPI 等の評価・検証については「富谷市総合計画審議会で行い」」と記載し、総合戦略の検証機関として本総合計画審議会が位置付けられており、本日、皆様からご意見をいただく流れとなっております。

続きまして、概要版の裏面【2/2】と記載された面をご覧ください。こちらが総合戦略の４つの基本目標とそれぞれの数値目標、そして、その数値目標につながる指標となる重要業績評価指標、いわゆるKPIと呼ばれるもの、それから取組方針を概要として掲載しております。

続きまして、それぞれの基本目標の令和7年度実績についてご説明させていただきますので、資料に戻っていただいて資料3をご覧ください。

※資料3「富谷市地方創生総合戦略数値目標及びKPIの実績について」により進捗の報告

最後に、地方創生交付金充当事業の KPI 実績についてご説明させていただきます。資料４をご覧ください。

地方創生総合戦略の中で重点的に行う事業について国の交付金を活用することが出来ることとなっており、その交付金を活用したプロジェクトにも計画の段階で数値目標を設けておりまして、こちらも総合計画審議会において検証することとしておりますので、数値目標と令和７年度の実績について簡単にご説明させていただきます。

※資料4「地方創生交付金充当事業のKPIの実績について」により進捗の報告

（風見会長）

事務局より「富谷市総合計画・後期基本計画の成果目標の達成状況」「第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証」「地方創生交付金充当事業のKPI実績について」の説明をいただきました。

これら全体の目標値の中で7割程度達成しているのは、大変優秀な数字と言っていいと思います。

細かいところを見てみますと、それぞれの指標の設定のあり方やアンケートの仕方、集計のあたりは、事務局にさらに精査いただくようお願いします。委員の皆様には、それぞれの立場から、達成状況とは逆に、実感としてちょっと数字が違っているだとか、そういうところがあればご意見いただきたいと思っています。未達成となっていても、実際にはもっと成果があるのでは、といった感覚の方が正しいことがありますので、チェック指標の見直しもこういうときにする意味でさまざまな示唆をいただければと思います。

まず、成果の数字について質問などございますか。もしなければ、それぞれの観点で、気になるところや、また今後の総合計画に対するご助言などを手短にご意見いただければと思います。

時計回りで髙橋委員から順番にお願いしたいと思います。

（髙橋（和）委員）

本当に高い達成状況で、すばらしい取組がなされてるなということを思いながら見ておりました。やはり見ていく際には、どうしても未達成などが気になるところではございます。私の認識が薄かったのかもしれませんが、このアンケート未実施のところで1項目が抜けたというのがどういう理由によるものだったのか気になったというところと、“基本方針Ⅲ　元気と温かい心で支えるまち！”のところでは、ここで未達成になっているのが障害者の支援に関わるもので、就労事業所数や重度障がい者等福祉タクシー利用券助成事業交付率ということで、これらについては様々な状況がある中だと思いますが、少し減少傾向ということで、今後は何か策を考えていければということを思ったところです。時間も限られていますので気になったところだけお伝えしました。

（風見会長）

ありがとうございます。事務局の方からご説明いただけるところがあればお願いします。

（企画政策課長）

満足度のアンケートのところですけれども、アンケートは総合計画を策定する段階で全市民の方の中から抽出して行うアンケートになります。そのため、全世代から男女などまんべんなくアンケートに協力いただいて集まった数値ということで、例えば子育て支援施策あるいは学校教育の充実の目標値が低くなっていたりというのは、全世代に対してお聞きしてるアンケートだからだと思っております。

新たな第2次総合計画では、今回の5年ごとのアンケートを目標指標には使わないように取り組んできたところで、満足度はまた別にセクションごとに確認していければと考えてございます。また「スポーツ・レクリエーション」の成果目標に対するアンケート未実施につきましては、令和元年の調査以降なかなか実施ができず、本年はしっかりと取り組むところですけれども、今後、スポーツに関わっている方についてどのように確認していくのかということは課題としてとらえさせていただきたいと思います。

障害者のところですが、残念ながら達成までは行けませんでしたが、障害者の方の施策についてはタクシー利用券助成やとみぱすの交付などをしながら、目標値に対し増加となるよう努力しているところでございます。第2次総合計画でも同じように目標設定をしておりまして、目標達成値があまり高くなりすぎないように今回設定しました。よろしくお願いいたします。

（高橋（和）委員）

この「週 1 回以上のスポーツの実施率」という指標の達成というのが余りにも具体的過ぎて逆に難しいのではないかと思ったところがありましたので、少し検討されているといいのかなと思ったところです。

（風見会長）

ありがとうございます。私も指標のあり方については、作った後からでも、その後適正に評価できるのかというのは見直すべきだと思いますので、そのあたり事務局でご検討いただければと思います。

（阿部委員）

くろかわ商工会富谷支部の支部長をしている阿部と申します。私からは、昨日も熊本で地震がありましたが、防災・救急・消防という項目があります。目標は未達成ですので、人口も増えてますし、目標として掲げている以上、目標をもっと大事にとらえ、達成出来るような体制にしていくべきと思ってございます。また、地方創生総合戦略の「とみやシティブランドの創出・発信による交流人口の拡大」の部分は達成になっています。ただ、私は富谷宿観光交流ステーション・とみやどに関わっていますが、いろいろ試行錯誤していかなければ、これが継続していかないんじゃないかなと思う部分もあります。何でもそうですが、計画に対する目標の数値だけ達成したからいいというものでもないですし、ものによっては、継続・持続していかなければならない部分もあると思いますので、そういったところも 1 つの観点として見ていくのも大事なのかなと思いました。

（風見会長）

ありがとうございます。防災の観点も重要ですね。事務局から回答をお願いします。

（企画政策課長）

防災関係のそれぞれの目標は、少し設定が高かったのかなというのもございましたので、新しい第 2 次総合計画では少し精査をさせていただいております。ただ、防災力というのは、ただ数字だけでは計れない部分もございますので、今後も引き続き継続してやらなければならない部分と認識してでございます。富谷宿観光交流ステーション・とみやどにつきましても、目標達成したから終わりということではなく、継続していくこと、どのように活動していくのかということが大事だと考えておりますので、そういった考えのもと進めて参りたいと考えてございます。

（風見会長）

ありがとうございます。シティブランドの戦略もすごく重要で、富谷宿観光交流ステーション・とみやど来場者数 90 万人達成というのはすごい数字だと思うんですが、やはり常に中身のリニューアルと、コンテンツ、またトータルとして富谷市全体のブランディングとの整合性が重要だと思います。そういった点からも、阿部委員のご指摘は重要だと思いました。

（大川原委員）

キスケフーズの大川原と申します。牛タンの製造、物販、広報をやっております。地元の１企業としては、やはり「富谷で働くことにやりがいを実感できるまち」というところがすごく気になるところで、目標達成というところがすごく多く、素晴らしいと感じております。

ただ、今日新聞に最低賃金が 55 円上がると出ていましたが、うちも雇用の創出というのは至上命題ですが、創出するよりも維持する方が大変そうだということで、生産効率も上げていかなければいけないと感じているところでございました。会社としてはおかげさまで飲食店もちょうど１年を経過しまして、何とか地元に愛される店を作っていきたいなというふうに思ってますので、雇用の創出と維持について頑張っていきたいと思います。

（風見会長）

ありがとうございます。ご意見ということで伺っていければよろしいですかね。キスケフーズさんのようなブランドのある企業様が富谷市で頑張っていただくというのはすごく重要です。最低賃金なども含め大変な時期ですが、雇用をどう作っていくかは、地域ぐるみでまちづくりにも参加いただくなど、地元との連携をより広げていただければと思います。引き続きよろしくお願いします。

（成澤委員）

成澤です。全体的にすべて 100％達成できればそれはいいと思いますが、この現状 70％以上というのも非常に高い達成率だと思いますので素晴らしいなと思ってます。ただ、未達成になった項目についてはなぜ未達成になってたのかという理由を分析し、やはり PDCA を回すという観点も必要だと思っておりまして、場合によっては施策自体を見直したりなどブラッシュアップしていけば、よりよい施策になると思いますので、ぜひよろしくお願いします。今、富谷市について、いろいろとプランニングみたいな話も出ています。私としては、富谷市はすでに非常に高いブランドになっていると思っておりまして、そのブランドをこれからも高められるように皆さんと取り組んでいければと思います。

（風見会長）

ありがとうございます。数値目標は PDCA が大切です。いい点を取ったから終わりじゃなくて、そこで達成して、その後どういう政策を誘導促進させていくか自分も点検するかということです。銀行の方々にもそういう点についてご理解いただいているなと思いました。数値目標の達成状況は、市長の通信簿みたいなものですが、とてもいい内容の通信簿だと思います。ただ、そこから政策課題がより見えてくるような、そういう分析をぜひしていただいて、進んでいければと思います。もう１点、富谷市はやはりブランド力の勝利だと思います。ブランドも市民力も自然への対応もそれぞれ長く続くものがブランドで、それぞれ、非常に順調にいってると思います。より強固に持続可能にすることに向かっていただければいいと思います。貴重なコメントでした。

（石井委員）

コムワークプロジェクトの石井と申します。主に仙台市の中心部商店街の活性化の仕事をしております。そういった目線で見ているときに、先週、河北新報さんの記事で、富谷市が「街の住みここちランキング 7 年連続東北第一位」というのが出てました。記事には村上委員が作ったコミュニティの記載もありましたが、そういうものが市民力・人の力だな思いました。それと、市長が先程 1,500 人いらっしゃるとおっしゃったユートミヤパートナーズについて、こちらは年会費として 500 円を払うわけですよね。これが、信じられない数字だなと思いまして、普通はお金をもらって何らかの組織に入るというのはありますが、自分でお金を払ってまでその組織に入りたいというのは、イコール、まちづくりに参画したいという意思表示だと思います。さまざまな指標の中でも市民参加・協働の項目の達成度は非常に高い数字が出ていて、これがまさに富谷市の資産だと思いますので、これからも大事にして欲しいと思うのと同時に、もし可能なら、なぜユートミヤパートナーズが 1,500 人まで増えたのか教えてもらえれば嬉しいなと思っております。

（若生市長）

ユートミヤパートナーズ、通称「ユーとミー」についてです。冒頭、ユートミヤはオープンまでに 10 年かけましたというお話をさせていただきましたが、施設の設計者が決まってからも、ワークショップをずっと継続して行い、最大限、住民の皆さんの意見を取り入れていただくよう、受託事業者さんには毎回参加していただいて、最大限取り入れていただきました。施設・ハードの設計の確定後、オープンまでの残り 2 年間は、ソフト面を話し合うパートナーズミーティングというものを市が主催し開催していました。その中で、この複合施設が完成したら市民がどのように関わっていけばいいのかを参加者により意見交換をする中で、去年の秋までにはその参加者の方が主体的に組織づくりに向けて規則を作り、秋に正式にユートミヤパートナーズ、通称「ユーとミー」が設立されました。そこで中心となって活動する“世話人”の皆様には、小学生や高校生なども含め本当に幅広い世代の方が名を連ねました。最初の目標として、行政の補助金で運営するのでは自立できないので、自分たちで自主運営できるために会費をみんなで払って運営していきましょうということで設立されました。とは言えあまり大きな金額は出せないので、1 口 500 円ということで呼びかけたところ、当初の 70 名ぐらいからどんどん増えて、今 200 人近くまでなってるということでございまして、このユートミヤに関わる色んな思いを持ってる方々が、ここで自分たちはこういうことやりたいんだ、こんなことやれたらどうだろうという夢を語り合ってる中で、自分もそこに参加したいというのがどんどん広がっていった、市民の主体的な取組、市民の皆さんの市民力の高さということでございました。

（風見会長）

ありがとうございます。委員のおっしゃった視点というのは、行政的にはやらない戦略ですが、若生市長は経営者の経験を踏まえて都市経営をされているんじゃないかなと思います。この会議の前に神戸市の都市経営について市長と話したのですが、宮崎元市長が都市経営をされました。行政の税金で経営するよりも、いかに地域のお金が循環するか、地域に投資できる都市になるかというのはすごく重要なことで、そういう意味ではやはり都市経営の時代なんだと思います。若生市長は意欲的で、経営のご経験が多いので、今の取組になっていると思います。これから、どういうふう

に市民力を維持していくのかとても重要なことです。今日、ここまでの話を踏まえ、富谷市民の市民力がなぜ高いのか、参加意識がなぜ強いのかを研究しなければいけない段階に来たんじゃないか、研究論文を書かないといけないのではないかと思いました。サンプリング研究させていただきましょう。やはり、市民力というのは参加意識なので、なぜ市民の参加意識が高いのか、若生市長がちょっとヒントをおっしゃっていました。夢を実現できるかもしれないということがあるかもしれないと思っていて、そのために市政に参加できる・まちづくりに参加できるというところが大きいと思いました。市民力をどう高めるか、それがすごく重要だと思いますので、今後も考えていかなければいけないと思います。素晴らしいご意見をありがとうございました。

（髙橋（知）委員）

東向陽台中学校の髙橋です。

先ほど市長から様々な話題提供がありましたが、子供たちは中総体を含めて本当に頑張って活躍してくれていて、子供たちの持ってる資質能力は本当に高いなと改めて感じているところです。

私が感じたことは、資料の目標の達成状況を見ると、令和７年度にではなく、かなり前から達成しているものもあるため、この市民力が高い状況において、達成している状況の持続だけではなくてさらにもっともっと挑戦してもいいのかなと感じました。ただ、達成したからそこで終わりということではなくて、本当に挑戦をしているからこそ、市民力がどんどんアップしているのだろうということも感じております。学校について言えば、今年度から水泳授業を民間でやる形になり、今後プールをどのように活用していくかということについて、これからコミュニティスクールが設置されていく状況がある中で、地域の中における学校の役割も非常に高まると思われます。例えば、電気が止まっている状況があったとして、そういう状況を打開できるようなシステムをプールの敷地の中に置くなどが考えられます。他には、これから部活動の地域展開により、部活動が地域とともに進むということで考えたときに、施設や設備をキープしておくなどの地域の中での役割も出てくると思います。富谷市は、試行錯誤をすることが許される市、地域だと思っていますので、これからもさまざまな機会においてどんどんと意見を言う、また意見をいただきながら進めていければよいと思いますし、そしてそれを活用していただけるというのが非常にありがたいと思っております。今回の目標の達成状況を見ていて、積極的な挑戦や発信といったことが、最終的には富谷市のブランド力に繋がっていくのかなと改めて感じているところです。

（風見会長）

ありがとうございます。挑戦するまちというのは、富谷のブランドの１つかもしれませんね。

チャレンジ精神のある人が試行錯誤できるし、頑張って成果を出せる。富谷市は対話をされていて、やはり対話型で何かをやるというのは市民力を上げることにつながろうかと思います。子供たちの教育も含めて、チャレンジ精神を失わないように、ぜひ、学校でも取り組んでいただくようよろしくお願いいたします。行政の方も同様によろしくお願いいたします。

（菅原委員）

社会福祉協議会の菅原です。

私は社会福祉協議会という立場ですので、ボランティアの関係で少し意見を述べさせていただければと思います。

基本方針の2の⑰、目標指標の学校支援ボランティアへの参加者数というところで、100％達成とはなりませんでしたが、達成度が85％ととても高い実績と見ていまして、令和3年のコロナ禍でそういったことがままならない時期を乗り越えて、また当初のころの基準まで盛り返してきたということで、大人も学生さんも皆さんの学校教育に対してのボランティア意識が高いんだなということをつくづく思っていました。また、基本方針の3の㉞、社会福祉協議会へのボランティア登録者数ですが、こちらも達成度83.3％ということで、達成までは至りませんでしたが、高齢化もあり、人材の確保はなかなか難しいところではありますが、市民の皆さんが自分たちの得意なものだったりとか関心の高いものに積極的にボランティア登録をしていただいて、活動していただいているというのが毎日の仕事をしていて思っていることです。また、そのボランティア登録をされなくても、様々な活動にご支援・ご協力いただいている市民の方々も大変多いと感じていますので、ここの数字に表れない部分でも、大変市民力が高いんじゃないかなというのが私の感想です。その他に、子供たちです。富谷市社会福祉協議会で通称「ちょぼら」と言って、国際的に恵まれない子供たちのワクチン接種に繋がるということで、ペットボトルキャップの回収をしていまして、この活動を子供たち、小学校や中学校の生徒さん、また地域の方々のご協力を得て、活動が広がってるなというところも、年々感じています。目標の達成度の数値は資料のような結果でしたが、達成度の数値だけでは見えない部分も多々あるのではないかと思っていました。

（風見会長）

ありがとうございます。

ボランティア精神について、最近は、子供の頃から地域に参加する機会が減っているので、昔のボーイスカウトみたいなものも含めて、生涯にわたり地域と関わるという仕組みを作るのが大事だと思います。今のご意見は、まちづくり全体に通じる話だと思いますので、事務局の方でも、地域ぐるみでどう参加していくかということについて、ぜひ実現していただきたいなと思います。

（富田委員）

長く委員をやらせていただいております富田と申します。普段はWeb・DTPなどIT系のツールを使ったサービスを提供しており、フリーランスで活動しております。よろしくお願いします。

今回こういった成果を見せていただいて、本当にすばらしい内容だなということと、今年から始まった計画の評価も今後見ていきたいなと思っています。

その中で、私の実感として、農業の部分でお話しさせていただきます。自分が仕事を始めた初期の時期からブルーベリー生産組合さんに関する仕事をしてきまして、リーフレットのラベルを作ったり、さまざまな仕事をいただいて、本当にありがたくお付き合いさせていただいています。生産組合の方はもちろん、生産者の方とも関わる機会がありまして、本当にありがたいなと思って10年ぐらいやってきています。生産者の方は、皆さん、もう大先輩なので、「疲れちゃったよ、年だよ」などとおっしゃいますが、「いや、まだまだ頑張れますよ、皆さんが引っ張ってきたじゃないです

か」などと言ってずっと応援してきましたが、10 年経って、ご高齢であるということを口にされる機会がすごく多くなっているように思います。この総合計画の中には、新規就農者の育成・確保を図るということが書いてありますが、実態としては、まだ、ずっと古くからの皆さんが一生懸命頑張っている状況が続いているように思っていまして、ここがすごく乖離しているような気がします。ブルーベリー、そしてスイーツフェアもすごく盛んで、大人気で、スイーツステーションの商品も含めて多方面からの期待値が高いと思います。ここをこれからどうやって埋めていくかが難しいなと思っています。もっと頑張ってと言うことは私からは言えないなと思って、何か策がないものかということをお会いする際によくお話ししています。新たな特産品開発数という目標指数がありますが、むしろ、今あるものをどうやって維持していくかについても目を向けていきたいなと思っています。

（風見会長）

ありがとうございます。

今の話をうけて私が思いますのは、富谷のブランドについて、特に農業がすごく強いわけじゃないですが、ブルーベリーと蜂蜜と富谷茶はすごく席巻してると思います。ただそれが農業施策としてどこまで行われているのかと、今のご意見を聞いて思うところがありました。農業を発展させるとなったときにはどういうインセンティブがあるのかというのはとても重要だなと思いましたので、ぜひ市長も事務局も受け取っていただければと思います。農業が新しい形で地場に発展していくような仕組みがそろそろ出来てくるんだろうと若生市長はずっとそれをお考えになってると思いますので、そのあたりが、ブランディングや持続可能にするためにとても大事なのかなと思いました。富谷の農業というのもすごく重要な要素になってくると思いますので、そのあたり事務局の方でもお考えいただければと思います。

（村上委員）

この会議の前に黒川郡教育研修会というものに参加しておりまして、黒川郡内の小・中学校の教諭の方から、とみやはちみつプロジェクトの概要や子供たちにどういうふうに伝えているのかというのを実際に見てみたいというご希望があったので、給食センターで説明させてもらいました。その中で、全然、ハチに関係のない話ですが、先生たちがこれからのプールの在り方の問題を話したり、私からは、学校でハチを飼ったらいいんじゃないかと話しました。何を言いたかったのかというと、そんなところまで話が進むくらいのコミュニケーションができたということです。先ほどから出ている市民力について、コミュニケーション無しに、市民力は高まらないと思います。行政の方との繋がりだけではなく、市民同士の横の繋がりというところもこの富谷市のすごく大きなブランド力になっていると私は実際思っています。今、富田委員が農業やブルーベリーのお話しをされましたが、ブルーベリーについては私も、どうしていけばよいか、生産者の方が高齢化してきているという話を様々な機会に伝えていたとは思うのですが、そこから横に広がらないからにはやはり手助けや仕掛けが必要ではないかと思います。やはり、富谷と言ったらブルーベリーで、その次の特産品として蜂蜜を頑張ろうと思って私も市民の皆さんと 10 年間やってきて、蜂蜜を給食に出せたというのが 1 つのモチベーションにもなっています。ただ、私もとみやはちみつプロジェクトもブルーベリー生産組合のようになるんじゃないかと最近思い始めてきて、いつまでやればいいのかな

どについて、他の市民の皆さんと、みんなでどのようにしていくか、などと自問自答しています。子供たちに伝えるだけではなく、先ほど髙橋委員もおっしゃっていたように子供たちから発信できるような場も欲しいなと思います。

今日、オブザーバーで東向陽台中学校のお二人が来ていますが、先ほど話した研修会で、一番盛り上がっていたのは東向陽台中学校の先生たちでした。どういうことかというと、先生たちが、久々に子供のようにたくさん質問をしたくなるような内容でしたとおっしゃっており、また不思議な生き物、不思議な食べ物、そういうふうに感じてくれていたのがすごく嬉しかったです。この蜂蜜は、ただの蜂蜜ではなく、市民の皆さんが作った蜂蜜だということなど、さまざまな要素が加わった蜂蜜です。私は養蜂家でもなくそれで事業をしているわけではありませんが、蜂蜜について何を伝えるかといったら、市民力で作った蜂蜜ですということを一番伝えたいと思っています。今後は、子供たちに何かを残すということをしていけば、そこが着地点なのかもしれませんし、今後どうしたらいいのかというのは、やはり皆さんと話をしたいなと思っているところです。成果目標の達成状況については、成果を踏まえて何かを変化させていくということが必要じゃないかなと感じました。

（風見会長）

ありがとうございました。田園都市というのは、基本的には都市と農業の融合ですが、まさしくそこの課題に迫ってきているのかなと思いました。都市で生活する人と自然・農業で生産する人がどう協力するかということでもあるので、もともと協同組合ですけれども、やはり皆さんが市民力を持ってその土地の生産物を作るというのは、すごいブランドだと思います。そのあたりが先ほどの仏を作って魂を入れるの話と一緒で、そこにかかるような気がしました。この仕組みにそろそろ真剣に取り組む時期がきたのかなと思います。後ほど、若生市長にご意見いただきたいと思います。貴重なご意見を情熱的にありがとうございます。メッセージを横に広げていきましょう。

（小松委員）

私は、富谷市で米、野菜、果物などを作って販売してるグループおんないん会の代表をやっております小松と申します。

富田委員からブルーベリー生産組合の高齢化のお話がありましたが、うちの会も 80 歳を超えた方もおり、私が一番若いと思っていたら、昨年、新規就農の方が 2 人入りまして、すごく活気が溢れるようになってきました。

成果目標の達成状況を確認して、新たな特産品開発数が一品だけというのはすごく寂しいなと思いました。私たちも、昨年から、野菜で何とか市を盛り上げようと思い、アレッタという野菜を市長に試食していただきました。おんないん会の会員は少人数ですが、みんなで富谷市の野菜で、富谷市の 1 つのブランドを立ち上げようと頑張っています。今年も新規就農者を増やそうといろいろ声をかけていますが、一番の問題は農地がなかなか無いことです。栽培する土地の条件も良し悪しがあり、また農地を貸したくないという方が多いです。あとは富谷市に住みたいけれど、農地と住まいが離れているため、住む条件が整わないということもあります。こういうこともあるので、空き家利用の一環として、空き家と農地が一緒に探せるようなことも出来たらいいなと思っています。人口の増加と同じように、農業の人員も増やしたいというのが私にもありますので、ぜひ市に

もご協力していただければと思います。農家である私達も、新たな特産品が開発出来るように微力ながら頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（風見会長）

ありがとうございます。今のご意見を聞いて、農業の担い手確保のため、農業移住やスマート農業も含めて若い方が入っていただけるような仕組みを作るために、何か政策的に手を打っていただきたいなと私も思いました。ぜひ市長はじめ事務局の方で取り組んでいただければと思います。そういうことに取り組むことで農業従事者の方々もより市に着目するようになると思います。頑張っていきましょう。

（増田委員）

教育委員をしております増田です。

冒頭の若生市長の報告から、すごく勢いというのを感じて、この数値目標の達成率も納得と思って聞いておりました。

私からは何度も出てきた市民力ということと、風見会長もおっしゃっていた自分ごとということについてお話させていただきたいと思います。昨晩、町内会長さんも同席しての会議がありまして、町内会長さんから、市民の方から来たいろんな意見を解決すべく一生懸命に取り組んでいるとの話を聞いて、私は重々承知し、いつも感謝しており、だから、この地域はいいんだなと思っていますが、よくよく考えるとそのように一生懸命に取り組んでくれている方がいることを知っている人は、実は一部だと思っています。この一部の人しか知らないという状況から、今後どれだけ増やしていけるかがすごく大事になってくるなと思います。今なかなか住民同士がコミュニケーションを取る機会は少ないですが、町内会長さんがどれだけの役職を兼任し、どれだけの業務をこなしてくれているか、それが村上委員もおっしゃってたようにコミュニケーションなどを通して、それをちょっと知っただけでも町内会への意識が変わってくると思います。面倒くさいと思ってることも、これくらいは何てことないなというふうに意識が変わる、コミュニケーションをとること・知ることによって、住民が町内会にもっと関心を持つというところが、今すごく大事なところかなと思っています。

（風見会長）

ありがとうございました。素晴らしい意見だと思いました。やはり市民力は、以前から掲げられているオールとみや、総力戦ということじゃないでしょうか。見えない力の部分にもちゃんと脚光を浴びせてあげて、そういう意味では富谷塾もそうですが、市民が本当に一生懸命、自分で学びを実践しようとするその流れに皆さん希望を持たれてると思うので、若生市長にはぜひそのあたりをもっと救い上げていただければと思います。縁の下の力持ちの方も本当にたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方々もぜひどんどん表に出てきていただきたいです。市民力の総力戦、オールとみやだと思いました。

（新藤委員）

行政区長会の会長をしております新藤と申します。行政区長の立場から申し上げます。今、増田委員からお話がありましたが、これからの町内会活動をどのように活性化するか、町内会も、時代とともに変わりつつあるので、どう対応していくかというのを今模索中です。例えば、町内会として若い方とお年寄りの方達との交流の場を、どのようにして設けていくかという企画をものすごく練っています。そこで1つ出たのは、12月に75歳以上の方だけのカラオケ大会をやろうということで、これは決定しました。もう1つは、町内会の芋煮会では、子供会の方達、若いお母様達とお子さん達で企画から全部やってもらうこととしたところ、子供会の会長さんと役員の方が密にコミュニケーションをとり、こういう企画でやりましょう、役割はこうしましょうというものが出てきました。私は、市民力は市民の満足度にも繋がってくると思います。町内会活動としてこういうことをやっているんだよというものをやはり見える形で示すということは大事だと思います。町内会長としての立場上、それを実践して、まちづくりの3本柱ではありませんが、子供から高齢者まで、みんなにやさしくて温かいまちづくりに少しでも寄与したいなと思っています。

（風見会長）

ありがとうございました。やはりオールとみやでやらなければいけないですから、その絆の部分をしっかりまた広げていただければと思います。

私の印象としては皆さんからは本当にすばらしいご意見いただきました。ありがとうございました。

それでは、大詰めになりますが、今までのご意見聞いて、未来の世代を代表して、今日ご参加いただいている中学生のお二人にご意見いただきたいと思います。

（オブザーバー①）

本日は貴重な機会をありがとうございました。

委員の皆さんの建設的な議論を目の当たりにしたり、富谷市の基本目標を改めて確認することができて、とても貴重な時間にすることができました。特にユートミヤについて、家族で市民図書館に行ったり、自習室、スイーツステーションに行きましたが、それらからは、富谷市民を大切にするというところを感じることができました。

質問ですが、まずロープウェイのジッパーについてですが、なぜ地下鉄ではなくてロープウェイにしたのかということです。ロープウェイには乗ったことがない人も多いと思いますが、なぜ検討されているのか、どこから乗れるようになるのか疑問に思いました。また、水泳の授業を民間委託するということでしたが、移動に時間がかかり、体育の授業時間が少なくならないのかということを疑問に思いました。先生の負担が少なくなったり、費用を減らすことができるというのは、とても衝撃で素晴らしいことと感じました。

（事務局）

ありがとうございます。ロープウェイなど新たな基幹公共交通につきまして、当然、最初に地下鉄も調査しました。調査していく中で、工事の期間が長くかかることや、工事の費用がたくさんかかることがわかってきて、そういったことが分かってきたところに都市型ロープウェイというのが

出てきました。それについて、どういう乗り物なのか、どのぐらい費用がかかるのか、昨年度調査をしたところです。まだ、どれを進めていくというところまでは至っていませんが、今後も調査をしていきたいと思っています。調査をしてきた中で、まず泉中央と明石台を結ぶというところから考えているところです。

（教育長）

ありがとうございます。私からは、水泳の授業のことについてお答えさせていただきます。

水泳の学習を民間に委託ということについては、先程、市長から説明があったとおり、一番に考えたのが、暑さ対策ということでございます。やはり安心安全な学習環境を保つことが大切と考えた次第です。調べてみると、先程お話があったように費用も半分で済むというところも確かに魅力ではございますが、安全というところが一番でございます。ご質問いただいたように、バスで、授業を行う泉中央まで行くとなると、校地にあるプール行くのに比べればはるかに時間はかかります。ただ、1つのクラスを4つぐらいのグループに分けて授業をするわけですが、これまでの水泳の授業に比べて、水に入って指導を受ける時間が非常に長く、密度も濃く、スイミングスクールならではのメソッドがあり段階を細かく切って進みますので、これまで以上に早い上達が見込めるということがありました。

（オブザーバー②）

本日は貴重な機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私が今回この会議に参加して感じたことは、計画してから実行することの大変さでした。例えば、ユートミヤは計画から設立まで10年かけていることを知り、すごく驚きました。市長さんからの市政運営報告を聞きながら、富谷市は計画してから実現するまでの力がすごくあるんだなと思いました。

私からは提案が2つありまして、まず1つ目がユートミヤ行きのバスのことですが、土日はユートミヤ行きのバスが通っていませんが、私たち学生は土日など休みの日にもユートミヤに行って勉強したり本を借りたりしたいと思っていますので、ぜひ土日にもバスを使えるよう検討していただきたいと思いました。

2つ目がロープウェイのことです。泉中央駅に行く手段がバスしかなく、混んでいたり便数のこともあり行きづらいというのがあるので、ロープウェイなど泉中央駅までの交通機関を増やしていただければ、高校生になって通学で使うときに、通学時間を減らすことが出来るのではないかなと思いましたので、ぜひ検討いただきたいと思いました。

（事務局）

ありがとうございます。ユートミヤについては、先ほど、会議が始まる前にいろいろお話しをして、実際に行ってますということを聞いて、とてもうれしく感じてました。今、富谷の市民バスは土日は運行しておりませんが、ユートミヤは年末年始を除き毎日開館していますので、皆さんのお声をいただきながら、実際どのように運行できるのかをこれからも考えていきたいと思っています。2つ目として泉中央への交通機関ということで、現在、バスは宮城交通が走っていますが、以前

から、宮城交通には朝も含めてバス時刻や本数、夜の時間帯のバスの増便などいろいろお話をしています。そういったものも引き続き取り組んでいくところではありますが、ロープウェイについても、すぐ来年にというのはなかなか難しいですが、いろいろ調査しながら、皆さんが利用しやすい交通というのを一生懸命研究していきたいと思っています。

（風見会長）

交通については、富谷市としてはすでに手がけていると思いますが、長くかかるものですので、お二人が高校生になったり、富谷でずっと暮らしていくなかで、またぜひ問いかけてください。ありがとうございました。

それでは、課題や要請もたくさんありましたが、若生市長から総括的によろしくお願いします。

（若生市長）

ありがとうございました。皆様方、限られた時間の中でそれぞれに貴重なご意見をいただき心から感謝申し上げます。オブザーバーのお二人もご意見いただきましてありがとうございました。本日いただきましたご意見をしっかりと受けとめさせていただいて、今後も努力していきたいと思います。

まず、お話しさせていただきたいのは、農業分野です。富田委員からブルーベリーについてお話がありましたが、今年でブルーベリー生産組合ができて 40 周年です。40 周年のプレミアムブルーベリーサイダーがたいへん好評で、デザインは富田委員に手掛けていただきました。私は富谷で最初にブルーベリーを始めた 6 人の若者の 1 人でございまして、当時、何か新しい富谷の特産品を作りたいという夢を持ったところから始まり、いろいろとアイディアがありましたが、すでに他地域で取り組まれていたり、また富谷市では栽培できなかったりなどがあり、夢を語ってはだめ、夢を語ってはだめ、ということを繰り返してる中で出会ったのがブルーベリーでした。ブリーベリーは、当時はまだ日本では全く栽培製造がされておらず、長野県の普及所と岩手大学で試験的に栽培しているようだということで、みんなで夜にワゴン車に乗って長野県の普及所まで何回も足を運び、手探りで始めたことを思い出します。当時は若者でしたが今では 40 年経ちました。私はメンバー最年少で、他は私より先輩の方々でした。私もずっと一緒に栽培してきたので苦労も分かりますし、確かにもう厳しいというのもわかります。でも、富谷のブルーベリーを何とか残していかなければいけない、大切にしていかなければいけないという生産者の皆さんの想いというのもすごく分かっております。私も農林振興事業の中で最優先に特産品であるブルーベリーを継続していくためにはどうすればいいかを考えていて、新規就農者に可能性を見出すことができないか、小松委員からお話のあった農地と空き家の一体活用などによる受入れ制度などはどうかなどと考えております。今、富谷は全体的に勢いがありますが、富谷の発展を支えてきた旧富谷の地域では、農業・農家の問題、後継者の問題など、現実として色々な課題を抱えてます。市街化調整区域の網がかけられてることで、建物を建てるにも施設にしようにもハードルがあり、そのハードルをいかに乗り越えてやっていくかというのを、私も就任してからずっと考えておりますが、長時間かけてもなかなか解決策が見出せないというところで難しい課題だと思っております。しかし、私も気持ちは同じですので、富谷の農業、ブルーベリー、そして蜂蜜など、これからも何としても継続していきたいと思っています。また、小松委員からお話のあったトミレッタ（アレッタ）、こちら大好評で、先日試食さ

せていただいてから、店に売っていれば家族が必ず買ってきます。ブロッコリーとケールをかけ合わせた新しい野菜で、体に良くて、美味しいです。実は先日、トミレッタ（アレッタ）を発信していきましょうと話したら、生産者がまだ少ないので生産体制が固まったら発信しましょうということになりました。富谷市としては新しい“富谷のトミレッタ（アレッタ)”の発信に向け態勢を万全にしております。小松委員・おんないん会のゴーサインが出れば新しい富谷のトミレッタ（アレッタ）ということで発信します。しっかりと第一次産業を守っていきたいと思います。また、増田委員からご意見ございましたが、地域で一生懸命頑張っている人たちの苦労というのを、我々は当たり前に知っていますが、確かに市民の皆さんは知らないかもしれませんので、新藤会長をはじめ町内会の皆さんのご苦労についてしっかりとお知らせしたいと思います。広報とみやなどでお伝えする機会もありますが、それでもなかなか行き届いていないという部分もありますので、そういったところをしっかりとやっていきたいと思います。また、村上委員からのコミュニケーション力が高いというお話、これは新たな富谷の誇りだと思いますので、こちらも大事にしていきたいと思います。本当に改めて皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（風見会長）

ありがとうございました。最後にまとめさせていただきます。

皆様のご意見を伺えて本当によかったです。まさに、まちづくり円卓会議の表層だと思いました。とても有意義で前向きなご意見に大変感謝しています。若生市長からございました、職と農がしっかりと地域に根づいた田園都市を目指すというのは、スローフードの先駆者である若生市長が取り組むのにはぴったりなテーマですので、農の部分をしっかり広げていってほしいなという思いを持ちました。

全体として感じましたのは、市民力とそのコミュニケーションというのがやはり富谷の基本なんだということです。オールとみやで富谷市の将来像をぜひ実現していただければと思います。夢というのは実現するためにありますので、オブザーバーの中学生のお二人から夢に溢れたご意見をいただきましたので、みんなで夢を実現しましょう。富谷市は、City of dream come trueになるのではないかと思いますがいかがでしょうか。皆さんでぜひ、夢を実現出来るまち、そういうストーリーを全国に広めていただければと思います。そうすれば、本当にサステナブルな田園都市・ガーデンシティが必ず実現するというふうに思いました。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。オブザーバーの中学生のお二人もありがとうございました。これだけ活発に議論してるのを見ていただいて、今後もその一員としてぜひ富谷を支えていただきたいと思います。若生市長には大変期待がかかりますが、是非とも快進撃を続けていただければと思います。

本日の議事を締めさせていただきます。お疲れ様でした。

7　その他

特になし。

8　閉会

※会議後に資料2に誤りが確認されたため修正した。